

農業



平成29年5月号

会誌 No. 1625

目次

巻頭言

米生産調整の見直しに向けて……………佐々木正勝 3

論壇

農家女性の活躍とアグリツーリズム……………納口るり子 4

地域セミナー 栃木

地域の持ち味を活かした高付加価値農業の展開…………… 6

基調講演

生産現場の情報を活用した高付加価値農業の展開

(地域農業の生き残りをかけて)……………澁澤 栄 6

パネルディスカッション…………… 20

農事功績者座談会

施設野菜作(キュウリ)経営…………… 28

私の経営と農業への思い……………山口 仁司 28

現地指導者のコメント……………野中 一弥 37

意見交換…………… 39

研究の最前線

農作物を利用した機能性食品開発の最新動向……………山本(前田)万里 49

農業・農村の現場から

過疎の町で世界とつながる，小さくて大きなカンキツ農園……岡林富士男 61

世界の農業は今

国の枠組みを越えた砂漠化防止と産業化への取り組み……富樫 智 67

私の経営と志

農業の新しいカタチを目指して……江口 竜左 72

農政情報

…………… 74

大日本農会だより…………… 75

編集部から…………… 76

ミニ情報

地理的表示保護制度(GI)に基づき登録された特定農林水産物(6)…………… 27

「まるみえアグリ：農業研究見える化システム」スタート…………… 48

表紙写真説明

棚田の田植え体験会（飯山市瑞穂地区福島）

飯山市瑞穂地区福島区の棚田は，日本棚田百選にも選ばれ，田植えや稲刈りの頃には多くの観光客も訪れる有名な地になった。

棚田の歴史は1861年（江戸時代）に，飯山藩から福島での開墾が認められ，14人が入植して新しい村ができた。湧水が出るよい土地であったが，傾斜地であること，掘ると沢山の石がでるといふ困難もあった。そこで，田作りには，城造りの石積みの技術が生かされ，田の土台を造り棚田となったのである。

地盤の基礎は石積みでできていたため，水はけがよく，美味しいお米を作ることができた。時代と共に農業が衰退し始め棚田が減ってくると，平成10年に有志により棚田を復活させようと保存会「三部の会^{さんべのかい}」ができた。

そして，保存会の指導のもと，地元の市立東小学校の児童全員が春の田植えと秋の稲刈りを体験する。作業の終わった後に食べるおにぎりと豚汁の味は格別だ。

（写真：信州いいやま観光局，文：飯山市経済部農林課 出澤俊明）